

『Mind Charging』

第 185 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 12 日

羽生結弦の名言



自分が負ける勝つではなく、 高みに立とうとしていることが大事

この言葉が、これまで“勝ってきた”羽生結弦選手から発せられているからこそ、『高みに立つ＝勝つ』ということ“だけ”ではないというメッセージとしての深さや、『だからこそ』の勝負に対する“重み”を感じます。羽生選手のようなスポーツの世界だけでなく、様々なジャンルにおいて勝負をしている人は大勢います。むしろ、誰もが何らかの勝負に挑みながら人生を送っていると言っても過言ではないはずです。その中で、勝つことによって成長することもあるでしょう。また、負けることによって成長することもあるでしょう。高みを目指して努力してきた成果を試すのが勝負をする瞬間です。ある意味『答え合わせ』とも言える勝負の結果と考えれば、『勝つことよりも価値のある負け』も存在するのではないのでしょうか。努力すれば必ず望む結果が得られるほど勝負の世界は甘くありません。“勝負から何を学ぶのか”を考えながら、正智深谷高校で高みを目指して様々な挑戦をしてほしいと思います。(編集委員：入試広報室 鈴木)

羽生 結弦(はにゆう ゆづる、英語: Yuzuru Hanyu、1994 年(平成 6 年)12 月 7 日 -)は、宮城県仙台市泉区出身のフィギュアスケート選手(男子シングル)。全日本空輸 ANA 所属契約(2013 年 -)。早稲田大学卒業。主な表彰は、2014 年・2018 年紫綬褒章。2018 年国民栄誉賞最年少受賞者。主な戦績は、2014 年ソチ五輪・2018 年平昌五輪 2 大会連続オリンピック金メダリスト。2020 年主要国際大会 6 冠全制覇を果たしスーパースラム・ゴールデンズラム。2014・2017 年世界選手権各優勝。2013・2014・2015・2016 年グランプリファイナル 4 連覇。2012 - 2015 年全日本選手権 4 連覇。世界ランキングは 2013/14 - 2017/18 年まで 5 シーズン連続 1 位。主な記録は、2016 年オータムクラシックのショートプログラムにおいて ISU 公認の大会で史上初の 4 回転ループに成功。ISU ジャッジングシステムのもとに開催された国際大会において、史上初めてショートプログラムで 100 点、フリースケーティングで 200 点、トータルスコアで 300 点超えを達成した男子選手。+3 / -3 GOE システム時代におけるショートプログラムで 112.72 点、フリースケーティングで 223.20 点、トータルスコア 330.43 点の世界記録保持者。2019-20 シーズンの終了時まで世界記録を通算 19 回更新している。

(Wikipedia 参照)